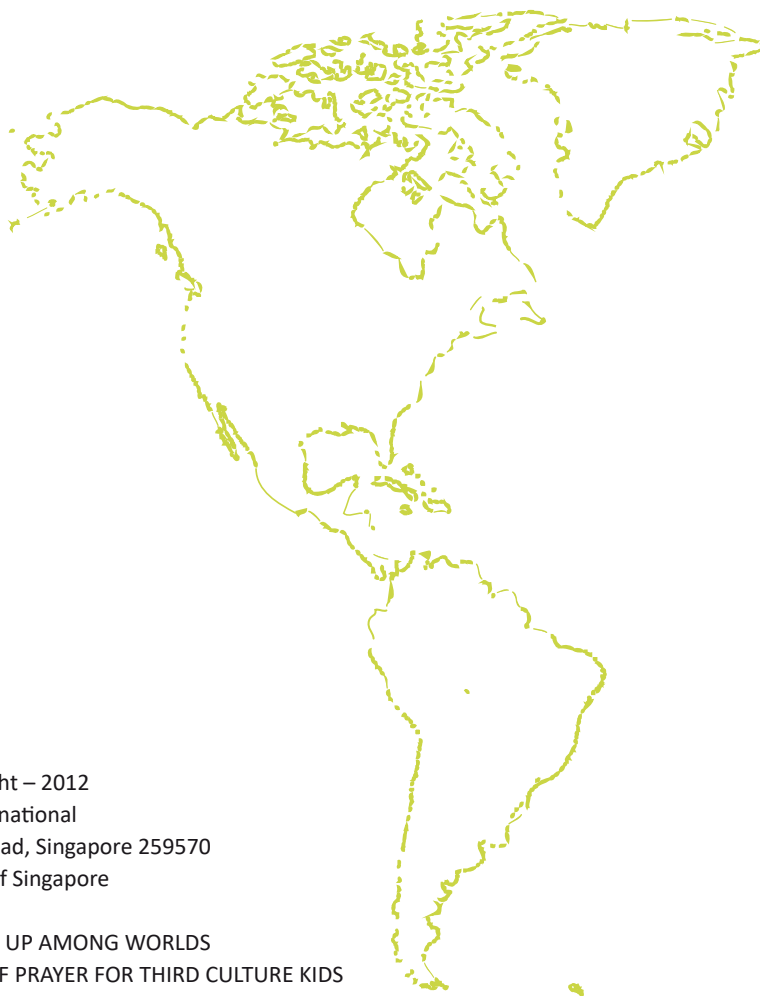




TCKのための 30日祈りのガイドブック

*Growing Up
Among Worlds*



© Copyright – 2012
OMF International
2 Cluny Road, Singapore 259570
Republic of Singapore

GROWING UP AMONG WORLDS
30 DAYS OF PRAYER FOR THIRD CULTURE KIDS

ISBN 978-1-907736-02-5

Printed by Oxford Graphic Printers Pte Ltd

日本での発行：日本ウィクリフ聖書翻訳協会
OMF日本ホームサイドセンター
日本語翻訳：日本ウィクリフ聖書翻訳協会（福永有）

聖書 新改訳2017©2017 新日本聖書刊行会 許諾番号 4-2-758号

はじめに

世界にはサード・カルチャー・キッズ（TCK）と呼ばれる子どもたちが数多くいます。「両親の生まれた国の文化を第一文化、現在生活している国の文化を第二文化とし、この2つの文化の狭間で、そのどちらの文化にも属することなく、独自の生活文化を創造していく子どもたち」のことを言います。宣教師の子どもはもちろん、国境を越えて働くビジネスマンや外交官などの子どもも含まれます（注）。彼らには共通した特徴があります。それは、自分の両親の文化とは異なる文化の中で育っている（育ってきた）という経験であり、それは彼らの成長過程に少なからず影響を与えています。

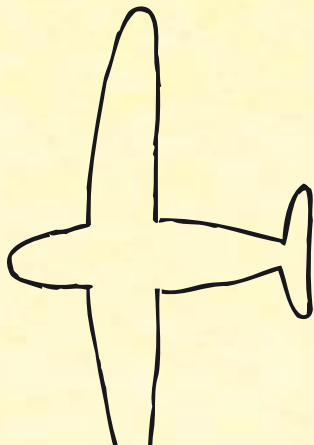
宣教師が福音宣教の働きに携わっている間、その子どもたちは異文化の中でどのようなチャレンジに遭遇しながら成長するのでしょうか。この小冊子はそのような理解の助けとなるものです。特に彼らのために祈っておられる皆さんにとって、本書は大いに役立つことでしょう。

本書に取り上げられている各ストーリーは、TCKたちの実際の体験に基づいています。ただし個人情報保護のために実名は控えています。本書を通して、読者は彼らが経験している様々な事に気づくでしょう。日頃祈っておられる宣教師家族のための祈りが、子どもたちのことも含めてより具体的なものとなっていくことを願っています。

どの宣教師家族にとっても子どもたちはかけがえのない存在です。同時に彼らは脆い存在でもあります。しかし彼らは一人ひとり神のかたちに造られた者であり、彼らのためにも私たちは祈る必要があります。宣教師の子どもたちのために私たちと共に祈ってくださることを心から感謝します。

（OMF・TCKケア・チーム）

（注）一部訳者による補足を含む



1日: サード・カルチャー・キッズとは?

ドイツ人のルーカスは、ずっとフィリピンで育ってきました。インターナショナル・スクール（国際校）に通い、午後は毎日ドイツ語を学びます。両親は中国系の生徒たちを教えているので、教会では中国語、家の近所ではタガログ語、学校では多国籍の友だちと英語で話します。



サムはジンバブエ（アフリカ）で生まれました。そこから隣国のモザンビークに移動し、そしてカンボジア、今はシンガポールに住んでいます。教会では100人以上ものティーンの中で白人はサムと妹だけです。今までサムはホームスクーリング、地域の公立学校、クリスチャン・スクール、国際校と移り学んできました。

ほとんどのサード・カルチャー・キッズ（TCK）と同様、ルーカスとサムは多くの文化と言語の中で生活しています。TCKは親のパスポート国とは異なる国で成長期の大半を過ごしています。文化的に重なり合うものだけでなく、時として相矛盾するものまでもそのまま吸収しながらアイデンティティを形成し、成長していきます。TCKは自分と似た経験を共有する仲間たちにしばしば親近感を抱きます。



TCKとしての成長経験は生涯にわたり深く影響します。自分自身をどう見るか（アイデンティティ）や、周囲の世界をどう見るか（世界観）にまでも及びます。

祈りましょう。

（1）異文化の中で我が子を育てることを進んで決断した親たちのゆえに神様を崇めます。

（2）TCKたちが成長段階で経験する特権とチャレンジの両方を用いながら、神様に喜ばれる成長を遂げていくように。父なる神様との親しい関係によってもたらされる自分のアイデンティティと価値を見出せるように。

（3）TCKの支援をしている人たちのために。常に神様が彼らに対して願っておられるように彼らを導いていくことができるように。

主よ。
あなたは私を
探り、知って
おられます。

詩篇139:1



2日:宣教地生活への旅立ち

ナオミの両親は短期宣教師として奉仕をしてきて、その間多くの宣教師家族の生活の様子も見てきました。ナオミの両親は愛する幼い娘のことを、祖父母や友人や親戚など多くの人たちに紹介してきました。これからナオミがそのような親しい人々と別れることが実際何を意味するかをある程度理解しながらも、海外で主に仕えることを志しています。

両親はナオミの教育について、小さい間は現地校に通わせ、足りないところはホームスクーリングの教材で補おうと考えました。しかし、TCKアドバイザーの話では、どのような学校や教育手段を選ぶかはその子の成長に大きく影響する、どのような選択をするにしても良いこともあればチャレンジもある、ということでした。どういった教育方法を選択するかを決断は、親が宣教地でどのような奉仕をするかを決断するのと同様、祈りと知恵が求められます。滞在期間の長さや子どもの年齢により状況は異なり、また同じ兄弟姉妹でも異なる場合があります。「絶対これだ!」といえることは絶対がないという現実を受け入れることこそ、親にとっての最大の課題です。

現地のTCKアドバイザーは、親たちが我が子の長期教育プランを立案するのを手助けし、一時帰国中はどうかや、その移動に伴う諸課題についても助言します。こうして両親がより適切な決断をすることができます。また将来にわたりTCKケア・チームがこの家族のためにどのような支援が必要となるかに備えることができます。

祈りましょう。

(1) 本国のTCKアドバイザーのために。宣教師家族が旅立つ前に、知恵と配慮をもって彼らに適切なアドバイスができるように。

(2) 初めて海外生活を始める宣教師家族のために。現地にいるTCKアドバイザーがその家族のために必要な支援の手を差し伸べることができるように。

(3) 宣教師家族が我が子の将来を見据えながら、それぞれの子どもたちにふさわしい教育計画を立てることができるよう、知恵が与えられるように。



あなたこそ、私の内臓を造り、母の胎
の中で私を組み立てられた方です。

詩篇139:13

3日：“大きな引っ越し”への準備



もうすぐ本国を後に旅立つ新人宣教師家族のために、約1か月間のオリエンテーションコースが開かれます。その中にキッズゾーン（子どもの広場）というプログラムがあります。子どもたちが間もなく出会う異文化生活に上手に適應できるためのものです。

「私は小学生のキッズゾーンが大好きです。子どもたちと一緒にいろんな活動をして楽しく学びます。いろんな国から来た子どもたちがしだいに仲良くなるのを見て感動します。私にとってのハイライトは、親たちの証しを聞く時です。それぞれの家族が別々の宣教地に出掛けていきます。私はモンゴルに遣わされて行ったスミス宣教師家族の「祈りの手紙」を送ってもらうことにしました。」（キッズゾーンの短期奉仕者より）

「私たちはキッズゾーンに

息子ヤコブを安心して預けることができました。ヤコブはそこで母語（スイス・ドイツ語）で短い文を話せるようになり、英語も少し理解できるようになりました。そこにいる間、ヤコブは心穏やかに楽しく過ごすことができました。パパとママは仕事（オリエンテーションの授業）が終われば必ず戻ってくる、ということが分かったからです。また、幼いわが子をしばらくの間手放すことは母親としても良い学びとなりました。これから遣わされる地で言語習得を始めるにあたっての心の準備にもなりました。」

（二人の子をキッズゾーンに送った母より）

祈りましょう。

（1）キッズゾーンで仕える短期奉仕者やボランティアのために。子どもたちが安心して楽しめる雰囲気作りができるように。

（2）オリエンテーションプログラムを準備する人たちが、各宣教師の異文化性にも配慮しながら創造的に計画し、子どもたちの今後の異文化生活への適應を助けられるように。

（3）初めて海外生活を経験する子どもや、ティーンのために。新しい人々との出会いと、彼らのために神様が備えておられるご計画を受け入れられるように。



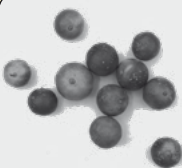
また、だれでも、このような子どもの一人を、わたしの名のゆえに受け入れる人は、わたしを受け入れるのです。

マタイ18:5

4日:故郷はどこ？

「ねえ、サム。きみの故郷(ふるさと)はどこ？」

港に入るフェリーの船尾から寄せてくる白波にまぶしく映える朝日の中、楽しそうに遊んでいた11歳のサムは、そう聞かれるとしばらく黙ってしまいました。



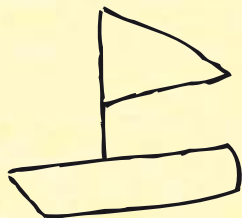
私はどこへ行けるでしょう。あなたの御霊から離れて。どこへ逃れられるでしょう。あなたの御前を離れて。たとえば、私が天に上っても、そこにあなたはおられ、私がよみに床(とこ)を設けても、そこにあなたはおられます。

詩篇139:7-8

おじいちゃんと孫のそんな会話が聞こえてきて、サムの母はひとり思わず苦笑しました。ジンバブエで生まれ、その後モザンビーク、ジンバブエ、イギリスと移り住んできたサム。現在カンボジアに住んでおり、今はここオーストラリアで休暇を過ごしています。サムはいったい何と返事をするのでしょうか。

サムは答えました。「天国かな。おじいちゃん。」

多くのTCKにとって、この問いに答えるのは容易ではありません。故郷と本当に実感できる場所は彼らにはどこにもないのです。親の国もその例外ではありません。ほとんどのTCKたちのその答えのトップに「天国」がくることは驚くことではありません。



祈りましょう。

(1) 子どもたちが両親の愛の中に憩いを見い出すことができるように。

(2) どこにいても、どのような経験をしたとしても、神様がいつも共におられることを確信できるように。

(3) 天国に行けば、もはや決して「別れ」を経験することはない、という確かな約束になぐさめを得ることができるようになるように。



5日:頻繁な移動生活の中での安定感



私が暁の翼を
駆って海の果て
に住んでも、そ
こでも、あなた
の御手が私を導
き、あなたの右
の手が私を捕ら
えます。

詩篇139:9-10

ある宣教師夫婦は「頻繁な移動生活を続ける中で、どうやって子どもたちの成長を支えてきたのですか」と聞かれ、次のように答えました。

1. 神様を中心とした家庭生活を心掛けること。朝食の後、一緒にみ言葉を読んで祈る。夜も一緒に食事をして、寝る前にも一緒に祈る。

2. 神様のご計画をいつも意識しながら移動すること。移動の度ごとに、子どもたち自身もなぜ引っ越しするのかを理解することができ、自分たちがかけがえのない家族の一員であることを自覚できるように。子どもたちは親の「お荷物」ではない。御国への歩みを親と共にする者たちである。親は子どものために祈り、子どもも親のために祈る。

3. 世界のどこに移り住んでも家族の「伝統」を続けること。例えば、金曜日の晩はファミリータイムで、映画を観たりテレビの前で夕食の時間を過ごしたりなど。家族の習慣として幾つかの変わらぬものを持つ。

4. 異文化間生活での面白いことや新鮮な経験を家族で分かち合うこと。同時に、経験した様々な困惑、悲しみ、怒りなども恐れず隠さず語り合う。

「感謝なことに、神様の恵みによって私たちの子どもは『海の果てに住んでも、神様の右の手が捕えて』くださり、豊かに成長することができました。」



祈りましょう。

(1) 宣教師である親たちが子どもに対していつも安定感をもって接することができるように。

(2) TCKの心が解放され自由にされるように。成長過程で経験する楽しい事もそうでない事も、何でも自由に親にも神様にも話すことができるように。

(3) あなたの知っているTCKのために。今日、その子が神様の御手に守られて安全に健やかに生活できるように。



6日:地の果てにまで

「神様が私たちの心に志を与えられたその村を目指して、高い山中のガタガタ道を通り抜け、3日かかってようやくたどり着いた。そこで私たちはテントに4泊したが、生後14か月のサラが果たして大丈夫かどうか心配だった。激しい雨のために寝具はほとんど濡れてしまったにもかかわらず、感謝なことに一番よく眠っていたのはサラだった。

私たちは結核を患っている友人を訪ねた。友人の叔父は重い皮膚病に罹っていた。その質素な家はあまりきれいではなかったが、だれもがサラを抱き上げキスしたくて近づいて来た。もし何かの病気やばい菌が娘に移ったらと気が気でなかった。でも、貧しいこの村の人々に喜びと愛をいっぱい振りまいている娘の姿を見ながら、私はこの娘はまず誰の子であるかということであらためて思わずにはいられなかった。この村の訪問中、娘がとても元気だったことに感謝している。

ここでの生活を考えるとき、子どもたちの健康や安全についてどんな恐れや不安も、すべてイエス様の御足のもとへ持っていかなければと思う。神様は、かつて幼いTCKだった私にもいつも目をかけてくださっていた。だから私の子どもたちのことについても、同じように神様に確かに信頼することができるはず。たとえ、こんな山の中の大変な生活だったとしても。」（自らもTCKである母親宣教師より）



祈りましょう。

（1）TCKたちが、人々に対する愛と関心をどのように表していくか学んでいけるように。

（2）宣教師家族が遣わされる地域において、その働きに伴う危険性についての調査を行なうとき、神様の知恵が与えられるように。

（3）神様が宣教師の親と子どもたちの心を守り、平和の砦となってくさるように。



わたしはあなたを国々の光とし、地の果てにまでわたしの救いをもたらす者とする。

イザヤ49:6



7日:二言語? それとも、もっと?

「両親は私に中国語の読み書きをきちんと学ばせようと何度も試みてきました。でも、香港から離れて住んでいる多く

の子どもたちと同じように、私も中国語の勉強から上手に逃げていました。その当然の結果として、私の広東語の読み書きは標準以下のレベルに留まり、今なお後悔しています。でも両親は、私が通っている国際校ではすべて英語だったけど、家では広東語で話すように決めていました。それにはとても感謝しています。しかし、たまたま会った親戚の人が、私の広東語が何か変なことに気づき、もっとしっかり読んだり書いたり流暢に話せるように、私がなぜ中国語の基礎を学習してこなかったのかと不可解に思うのです。」(香港出身のTCKの青年)

難しい決断をしなければならない家族があります。子どもたちが母語(二つ以上の場合もある)を維持していくことは、アイデンティティの確立のためにも極めて大切です。また、その土地の言葉を話せなければ友だちはできません。そして、ほとんどの国際校の授業は英語です。いくつの言語を(また、どの言語を)子どもに学ばせるべきか。さらには、自分たちの母語を話す人々が家族以外は周りにいないのに、どうやって子どもにそれを維持させる

ことができるのか。親には子どもの将来のための教育プランと忍耐が求められ、TCK自身には長期間の学習努力が必要とされています。

祈りましょう。

(1) TCKたちに、その土地の人々の言葉と文化を学ぶ意欲とスキルが与えられるように。

(2) TCKたちが母語を維持できるように、家族皆が時間と労を惜しまず献げられるように。

(3) TCKたちが、宣教地でも出身国でも、確かな友人関係を築き上げられるように。



ことばが私の舌
にのぼる前に、
なんと主よ、あ
なたはそのすべ
てを知っておら
れます。

詩篇139:4



8日:緊急医療脱出

「ママが病気になって入院した。パパがママに付き添っていた。パパが付き添えない時は“おばさん”（ママの親友）たちがやって来てくれた。病院では必ず誰かが入院患者に付き添わなければいけないから。

お医者さんから言われて、ママは別の国の病院に行くことになった。その病院にはナースがいるので、パパがいつもママと一緒にいなくてもいい。ぼくたち家族も皆その国に移動した。すると今度はパパがとても疲れてしまって、“おばさん”のひとりがやって来てぼくたちの世話をしてくれた。

しばらくすると、パパは本当に具合が悪くなり入院した。おじいちゃんが飛行機でぼくたちのところに来てくれた。弟たち二人も病気になった。ぼくも病気になるのかなと怖くなった。

パパとママが退院したときは本当に嬉しかった。でも、今まで住んでいた国にはすぐに戻れなかった。仕事ができるようになるには、二人とももっと休まなければいけなかった。パパもママも長い間休んでいた。弟たちはすぐに良くなった。ぼくたちは動物園に連れて行ってもらった。ママとパパが病気になった時は不安だったけど、二人とも大きな病院に入院して良くなった時は本当に嬉しかった。」（年少のTCKより）



祈りましょう。

（1）親たちのために。神様の守りに信頼し、子どもたちも同じように神様に信頼することができるように。

（2）病気の予防や危険予知に関して、親たちにふさわしい知恵と知識が与えられるように。

（3）医療に従事している宣教師のために。彼らがTCKのケアに関して、遣わされた地域、その国内および国外の医療環境の中で、適切な判断ができるように。



どうか、あなたに身を避ける者がみな喜び、とこしえまでも喜び歌いますように。あなたが彼らをかばってくださり、御名を愛する者たちがあなたを誇りますように。

9日:ありがたくない訪問者

「強盗が我家に侵入しました。日曜の朝、家族で教会の礼拝に出掛けて留守の時でした。幾らかの現金（働きのための資金）と、息子ジョシュアが大切にしていたコインのコレクションが持ち去られました。感謝な事に、コンピューターとその他の電気機器類、パスポート等は大丈夫でした。」

その後しばらくは、子どもたちはこの出来事を難なく乗り越えているように見えました。しかし今朝、彼らの心は今なお落ち着かず、物事に集中できないでいることに妻が気づきました。私たちはジョシュアとエステルと一緒に座ってもう一度この事について話し、二人のために祈る時を持ちました。どうかジョシュアが、自分の物を取っていった盗人たちを赦せるように祈ってください。エステルも、家に強盗が侵入したことや大切な働きのためのお金が失われたことで動揺しています。でも、銃を持った強盗と直接顔を合わせることもなく、皆無事だったことは本当に感謝しています。」

（ある宣教師から支援者への手紙）



神よ、私をお守りください。私はあなたに身を避けています。

詩篇16:1

トラウマをもたらす恐ろしい出来事は、TCKに限らず起こり得るでしょう。しかし、彼らの中には、本国の同世代の子たちとは違って、強盗、身の安全が脅かされる危険、社会不安や戦争、繰り返す自然災害などいつも隣り合わせの子どもたちがいます。それらを異文化の中で経験することで、彼らはいっそう傷つきやすくなっています。

祈りましょう。

（1）自分の大切な物を盗まれたり壊されたりした経験を持つTCKのために。多くの人々との別離を経験する彼らには、それは容易なことではありません。

（2）悲惨な体験をした後、子どもたちも通常の生活を取り戻すことができるために、親が彼らを支えていけるように。

（3）危機的な経験をした家族のために、特別なケアができる専門の人が備えられるように。



10日:海外で過ごす祝日

「私はとても落ち込んでいた。次の（中国の）新年は、この南アフリカで独りで過ごさなければならないと分かっていたから。ところが驚いたことに、ここに着く前にある方が“お年玉”をくれた。『新年おめでとう！』と呼びかけるルームメイトの大きな声で起こされた。同郷出身の人が用意してくれたバーベキューポークと、同じチームの香港出身のメンバーが持って来てくれた月餅を皆で味わった。宿舎では、スイス人とマレーシア人を両親に持つ方と同じ部屋を割り当ててくれたので、彼女と広東語で話すことができた。元日の夜にはもうグループのほとんど皆が、広東語の新年の挨拶を覚えてくれた。故郷の愛する家族からの電話もしばしばかかってくる。この新年は今までにない最高の新年になった。」

（短期宣教奉仕中の青年女性TCK）

学校の生徒寮で過ごす誕生日。初めて祖父母から遠く離れて迎えるクリスマスや感謝祭。故郷の家族の結婚式に出席できない時。TCKやその家族にとってこれらはとても辛い時となることがあります。いつも一緒にいた家族が不在の時、ホームシックは最も心が痛む経験です。

祈りましょう。

（1）家族や友人と遠く離れて、誕生日やクリスマスなどのスペシャルな日を過ごすTCKと家族のために。神様が彼らを慰め、祝うための何か特別な方法を与えてくださるように。

（2）宣教地に住むTCKとその家族がその土地の祝祭イベントに関わる時、霊的判断力と地域の人たちと親しくなるための優しい心が備えられるように。

（3）お互いに遠く離れている家族の間で、親しい関係を維持していくために創造的な方法を考えていくことができるように。



人々はあなたの豊かないくつかの思い出をあふれるばかりに語り、あなたの義を高らかに歌います。

詩篇145:7



11日:悲嘆と喪失

「ポールは素晴らしいクリスチャン青年だった。しっかりした生徒でスポーツも優秀だった。私は高校のサッカーチームで彼を指導する特権にあずかったことを誇りに思っている。

ポールは真のチーム・プレーヤーだった。

ある週の火曜日、ポールと何人かの生徒と教師らが体育館でバスケットボールをしていた。休憩時間になったとき、ポールはめまいを感じ始めた。その直後、彼は気を失い、床に倒れ、彼の呼吸と脈が停止した。生徒と教師らは直ちに心肺蘇生をしながら彼を病院に運んだ。残念ながらポールは再び意識を回復することなく、その1時間後に病院で息を引き取った。

生徒のみならず、いろいろなグループやコミュニティ、その国の人たちまでもが、非常につらい時を過ごし、恐れと不安に包まれた。この悲惨な出来事は、生徒たちにも教師たちにも強烈な影響をもたらした。ポールが亡くなった直後から何日もの間、彼の死と彼との別離について様々な問いが消え去ることはなかった。」

(ポールの高校の一教師より)

愛する仲間との死別は誰であってもトラウマ（心的外傷）となり、特にTCKだけに起こることではありません。しかしそういった経験は、本国の家族や友人たちから遠く離れて生活しているTCKにとってはいっそう衝撃的なものとなります。地域によっては十分な医療設備が整っていないこともあります。そのような場合、親や親しかった人たちが、彼（彼女）が死に至ってしまったことに対する不当な罪責感を持ってしまうこともあります。

祈りましょう。

(1) TCKたちが愛する者の死に直面したとき、彼らが支えられるように。

(2) 予期せぬ突然の死の別離がTCKたちを襲ったとき、カウンセラーや、身近な大人たち、仲間たちが彼らの心に寄り添うことができるように。



神はわれらの避け所、また力。苦しむとき、そこにある強き助け。 詩篇46:1



12日:「サンキュー！」

「“サンキュー！”のことは毎日たくさんかけられて、私は元気をもらっている。そんな心のこもった感謝の一言を絶やすことなく投げ掛けてくるのは誰だと思う？なんと驚くなかれ！中学生たちだ。ふつう陰口ぐらいしか言わないような、教えるのもビビってしまう、11歳から14歳の子どもたちだ。

こちらが何か特別な事をしてあげた時だけ感謝されるのではない。いつもののだ。彼らはその一言を忘れることなく言うから、私の教室を出て行く。ニュートンの重力の法則を教えたときも。生きた魚のしっぽの血管を顕微鏡でのぞいて血球が動いているのを見たときも。

このクリスチャン・インターナショナル・スクールで教えたこの一年は、私にとって今までの教師生活で最高に充実し満ち足りた年となった。生徒の出身地は五大大陸すべてにまたがり、身体の特徴も体格も肌の色も様々。宣教師の子どもたちもいれば、多国籍企業のビジネスマンの子どもたち、あるいは非政府組織（NGO）で仕事をしている人の子どもたちもいる。必ずしも皆がクリスチャンの信仰を持っているわけではない。でも彼らの学ぶ姿勢や態度にはやはり驚嘆せずにはいられない。ただのまじめな中学生だけというのではない。すばらしいと心から感じる中学生たちなのだ。」（中学校の一教師より）



祈りましょう。

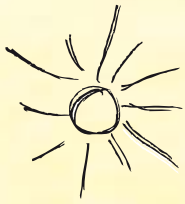
（1）インターナショナル・スクールで教えることを通してTCKのために喜んで奉仕する教師を神様が起こし、世界各地に遣わしてくださるように。

（2）TCKである生徒たち、教師、学校職員皆が協力して、神様の御名がほめたたえられる学校を造り上げていくことができるように。



キリスト・イエスのうちにあるこの思いを、あなたがたの間でも抱きなさい。
ピリピ2:5





13日:クリスチャン・インターナショナル スクールで教える

「クリスチャン・スクールで働くことの大きな喜びのひとつは、聖書の真理をまっすぐに教えられること、そして祈りから一日を始められることです。私の普段のクラスの様子を紹介します。



朝7時半に子どもたちが教室に入ってきます。担任の先生が、『一日を始める前にだれかお祈りしてくれないかな』と言うと、5～6人の子どもたちがすぐに元気よく手を上げて祈ります。年上の子どもたちが、交替で準備している聖書からの短いお話を始めます。もう少し長く祈る時間があるときは、彼らがいろいろな祈りの課題を上げ、自分の親の働きのために具体的に祈ることもあります。

聖書の時間はカリキュラムの中心です。私にとっても聖書の時間は身の引きしめる思いです。『イエス様はどのようにして再び来られるの?』といった難しい神学的なものから、『奇跡って

何?』とか『先生は奇跡を見たことがある?』といったものまでいろんな質問が出てきます。

クラスでのこのような対話や祈りの時間を通しての、宣教師の子どもたちのユニークな霊的成長の様子を見たなら、あなたも感謝をささげることでしょう。子どもたちの中には、親と一緒に福音を携えて出掛け、人々の前で証した子もいます。奇跡を目の当たりにした子もいるでしょう。神様が確かに祈りに答えてくださり、力強い方法で働かれ、語っておられるのを経験しているのです。」(クリスチャン・インターナショナル・スクールの教育宣教師)

祈りましょう。

(1) クリスチャン・スクールで学ぶTCKたちが、親や先生からの信仰を自分のものとしてできるように。

(2) 教師たちがカリキュラムを多国籍の子どもたちのためにふさわしく整え、上手に教えるスキルを習得できるように。

(3) TCKたちが学んでいるクリスチャン・スクールのために。管理職・保健師・図書館司書・施設管理者・学校理事など必要な教育関係者が遣わされて来るように。

私はあなたの
ことばを心に
蓄えます。あ
なたの前に罪
ある者となら
ないために。

14日:現地校で学ぶ

ジェームズとジョアンナは新しい土地での生活にもすっかり慣れ、異文化生活を楽しんでいます。二人は引っ越して来るとさっそく幼稚園の大人数の堅苦しいクラスに入って中国語の勉強を始め、すぐに上手になっていきました。中国語は二人にとってこれからの人生の貴重な財産となるでしょう。彼らの一番親しい友だちは皆、クラスの中国人たちです。クラスの子たちは二人が自分たちとは違うことを知っていますが、それは大した問題ではありません。唯一の大きな違い、それはジェームズとジョアンナは午後家に帰った後でさらに勉強しなければならないことです。将来の準備としての母語の学習です。これは親にとっても容易なことではありません。しかし母親は、これが二人にとって非常に大切なことと信じているので、忍耐して教え続けます。

ジェームズとジョアンナが将来どんな進路選択をするかは分かりません。現地校での学びは、新しい言葉と文化への入口としては魅力的です。しかし同時に学習スタイルや価値観や目標設定などは、親の願いとは非常に異なっている場合があります。学年が進むに従って中国語のレベルは上がり、宿題の量も増し、その国の学校システムに沿って中学以上の学校に進むことは難しくなります。とにかく今の彼らには、漢字の勉強とピアノのレッスンだけで精一杯です。

祈りましょう。

(1) TCKが現地の学校に通う場合、それによって聖書や家庭の価値観とどのような違いが生じるか、その識別ができるように。

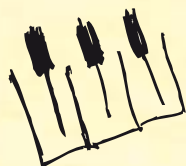
(2) 学校の宿題と同時に将来のために母語を学ぶ必要があるTCKが、忍耐をもってそれを続けることができるように。

(3) 宣教師である親たちが現地校の教師たちと良い関係を築けるように。



心を尽くして主に
拠り頼め。自
分の悟りに頼
るな。

箴言3:5



15日:ホームスクーリング



「ここはゲストホームの静かなラウンジ。マークとピーターの学習活動計画について、母親とこうして話せる機会を私は楽しみにしてきました。彼女は性格のまったく異なる二人の息子に教えることを重荷とは思わず、楽しみながら励んでいます。新年度のカリキュラム立案のために何らかの良いアイデアを探していました。



別の部屋では、彼女の上の息子が7人の“クラスメイト”と一緒に理科の実験を、下の子は5歳から7歳までの子どもたちと一緒に音楽の授業をそれぞれ楽しんでいます。

この“ホームスクール・ウィーク”では、子どもたちは一緒に理科の実験・音楽・美術・ゲーム・賛美・野外活動・選択のクラブ活動などを楽しむことができます。これはTCKたちが家でひとりではできない学習を補うために、他の子たちと皆で学べる貴重な機会です。

す。また、親たちにとっても資料集めや互いのアイデアを交換する機会、そして、「親と同時に教師」という毎日の緊張からしばらく解放される時です。専門の教師たちは、わずか2週間ですが、創造的な学習法を紹介しながら親たちを励まします。教師も親も子どもたちも皆、何か新しいものをここから学び取っていくのです。」

(“ホームスクール・ウィーク”のコーディネーター)

祈りましょう。

(1) ホームスクーリングで学ぶTCKたちの学習経験がより豊かなものとなるために、専門の教師たちが教え方のスキルを親に喜んで紹介できるように。

(2) 「ホームスクール・ウィーク」を通して、TCKとその親たちが日々の学習活動のための新しいアイデアと励ましを得ることができるように。

(3) 「ホームスクール・ウィーク」で得られた親しい友人関係を通して、TCKがたくさんの仲間と主イエスとの交わりを与えられていることに気づくように。



それらは今日も、あなたのためにしたがって強く立っています。万物は、あなたのしもべだからです。

詩篇119:91



16日:ホームスクーリングを支援する 教育コンサルタントたち

「それは忙しい朝でした。60人以上ものTCKたちがホテルのあちこちの集会室で、標準テストに取り組んでいました。親たちはこのテスト結果を通して、自分の子どもの学力が本国の子どもと比べてどの程度進んでいるかを知るための参考資料を持ち帰ることが出来ます。この研修会では、宣教地での働きの中に、子どものホームスクーリングもしっかり位置づけている親たちのために、様々な分科会も設けられました。

ある親がホテルのロビーで私に話しかけてきました。『一年前のこの研修会で、息子の英語学習について良いアドバイスをいただき感謝しています。とても役立ちました。』異文化圏で奉仕している多くの働き人家族が一堂に会する機会 はめったにありません。しかし、我が子の教育のために励ましの言葉を聞き、自分の悩みを聞いてもらい、いろいろな情報を求めて多くの親たちがやって来ます。正直なところ、私はその人にどんなアイディアを提供したか覚えていません。でもそれが何であれ、お役に立てたことは確かのようにです。」（教育コンサルタントより）



祈りましょう。

（1）教育コンサルタントたちが識別力をもって親たちの話に耳を傾け、洞察力を持って適確な情報を提供できるように。

（2）異文化圏で奉仕している家族のために、教育の分野で支援している団体やネットワークのために。（Asia Education Resource Consortium, SHARE, Anchor Education など）

（3）遠隔地の環境で多くの時間を過ごしているTCKたちのために。彼らがいろいろな機会を通して友人との繋がりを持つことができ、その交わりを楽しむことができるように。



正しい人の唇は
多くの人を養
う。

箴言10:21



17日:家族を離れ、新しい家族へ

「アジアの人々を愛し、み言葉の訓練をしている働き人—その子どもたちを愛し訓練すること。」チェンマイ（タイ）にあるOMFの生徒寮で奉仕している人たちは、これを働きのモットーとして掲げています。彼らは遠く家族を離れ、そこに来ている子どもたちを愛し共に生活することを通して、アジアで働く宣教師たち家族を背後から支えています。

「私たちは、2つの別の学校に通う9人の生徒を世話しています。今、年度初めのとても忙しい時期を迎えています。教師と“親（寮父母）”との面談が3つあり、生徒のフット

サルのゲームを観戦し、私たちの寮の説明会をし、他の寮との合同パーティをし、子どもたちを野外遠足で滝まで連れて行き、新しく入寮する生徒との家族面談を3つ持ち、ビザ申請のためにバンコクに飛ぶ子どもを空港まで連れて行き、寮内のあちこちの修理（ドアノブの取り換え、水道管修理、ペンキ塗り等）を済ませ、掃除当番表を作り、家庭礼拝をし、誕生会を開き、宿題を助け、新しい寮のアシスタントの指導をし、

いずれ私たちの交替としてやって来る寮父母とアシスタントとの打ち合わせなどをしました。でも、私たちは21歳の青年アシスタントに大いに助けられ本当に感謝しています。子どもたちも彼が大好きです。」

（ある寮父母の「祈りの手紙」から）

祈りましょう。

（1）子どもたちがふさわしい学校に安心して通えるために、献身的で思いやりのある寮父母とアシスタントを神様が遣わしてくださるように。

（2）寮で奉仕する人たちが、子どもたちと良い関係を築くことができ、スタミナが与えられ、霊的な識別力を持つことができるように。

（3）寮父母たちが、子どもとその親たちとの間で、健全でオープンな関係を持つことができるように。



私と私の家は、
主に仕える

ヨシュア24:15

18日：“ボクの毎年恒例のハイライト”

「カンファレンスはボクの毎年恒例のハイライトでした。ボクたちティーン全員参加のアメイジング・レースでの“香港を発見しよう”は最高でした。薬物依存症リハビリ学校の訪問では奉仕の心得を学びました。夜の山登りではかけがえない友人ができました。メッセージではいつも神様と共に歩む自分自身の旅について振り返り、今まで知らなかった世界の今日的課題にも目が開かれました。最高の宝はTCKの仲間たちとの出会いでした。ボクたちは心の悩みを分かち合い、キリストにあって共に成長することを学びました。ボクたちは皆、世界中に繋がる宣教師ファミリーの中で生きていることを実感できました。」（TCKの青年より）

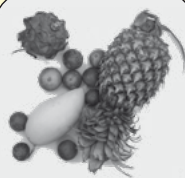
宣教団体のカンファレンスは、同じ様な境遇にある働き人たちが共に集まり親しく交わる貴重な機会です。特に、遠隔地で宣教の自由の厳しい制限の中に住んでいる働き人にとっては、この時がそのような唯一の時からかもしれません。子どもたちにとっても、他のTCK仲間たちと交わり、生涯の友情を築く時となります。カンファレンスのイベントに共に参加し、キッズやティーンのプログラムで奉仕する短期ボランティアは、彼らにとって大きな祝福となります。

祈りましょう。

（1）宣教団体のカンファレンスに喜んで参加し、子どものプログラムで奉仕する人たちが起こされるように。

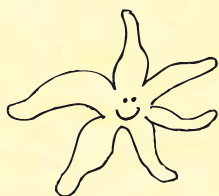
（2）TCKのためのプログラムを企画する短期奉仕チームのために。聖書の学び、レクリエーション活動、年齢にふさわしいプランを準備できるように。

（3）TCKたちが良き友人関係を築けるように。信仰を励まし合い、大きな宣教師家族の一員であるという実感を持てるように。



イエス・キリストのことを心に留めてください。

Ⅱテモテ2:8



19日：アドナイ・イルエ



「ケイティの一番大切なものはぬいぐるみのお友達。いろんな人からのプレゼントや、お小遣いをためて買ったものもあります。セカンド・ハンドのお店に行くたびに、寂しそうなお友達を見ると救い出してあげたいのです。」

家族で初めて参加した宣教団の総会が終わった時、ケイティのテディベアが見当たりません。皆で捜しましたが見つからず、とうとう旅立つ時間が来ました。とても大切なものを失くしたことを連絡しておきました。その後宣教団本部から小包が届きました。丁寧に包装されたテディベアが入っていました。それ以来、ケイティと宣教団とは家族のように親しくなりました！

私たち家族は神様からアジアのある国に行くように導かれました。ケイティは二百ものぬいぐるみのお友達と一緒に連れて行きます。引退した宣教師が籠の入れ物を譲ってくれました。ケイティがお友達を詰め込んでぎゅうぎゅうにすると奇跡的に全部収まりました。ケイティと同じ背丈の犬も首をギュッと曲げられたまま数週間海の上でしたが大丈夫でした。お友達は皆無事に到着しました。今でも皆ケイティと一緒にです。

神様が、ケイティも彼女の大切なものも全部、深く愛しておられると感じます。優しく慈しみ深く。」（あるTCKの親より）

祈りましょう。

（１）TCKが必要を満たしてくださる神様を深く知ることができるように。

（２）TCKがお金や時間を賢く管理し、神様のために喜んで献げることを学ぶように。



二羽の雀は一アサリオンで売られているではありませんか。そんな雀の一羽でさえ、あなたがたの父の許しなしに地に落ちることはありません。…ですから恐れてはいけません。あなたがたは多くの雀よりも価値があるのです。

マタイ10:29,31

20日：派遣教会との繋がり

「教会学校の皆へ。

私たちはホープ・インターナショナル・スクールという学校に通っています。

カンボジアは私たちの国とはいろいろ違います。道はでこぼこです。家は高い建物の中にあります。床はじゅうたんではなくタイルなので、物を落とすと割れてしまいます。食べ物も違います。でもケンタッキーとラッキー・バーガーがあります（マクドナルドはまだないけど）。

この写真はお手伝いさんのボロニーです。とても良い人です。たいへん親切にしてくれます。少し英語が話せます。食事を作り掃除をしてくれます。パパとママがクメール語の勉強に行っている間、私たちを見てくれます。

この写真はカンボジア人の友だちのリンダです。下の階に住んでいます。私たちの家にも遊びに来ます。リンダは、お父さんとお母さん、おじいちゃん、おばあちゃん、おばさん、おじさん、いとこと一緒に住んでいます！

パパはバイクを買いました。私たちはハンモックでアイスクャンディーを食べるのが好きです。マーケットでの買い物は、おいがして好きじゃないです。ナオミとサミーより。」

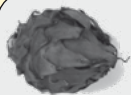
この家族を派遣している教会の子どもたちは、彼らがカンボジアに初めて着いたころ、ナオミとサミーの寝室の飾り物を贈るために貯金をしました。

祈りましょう。

（1）TCKが現地の生活の様子を知らせることによって、派遣教会に祝福をもたらすように。

（2）派遣教会や個人支援者たちが、遠く離れた宣教師の子どもたちの必要について関心を持ち、親しい関係を保てるように。

（3）TCKが、派遣教会や本国の友人たちから愛され支えられていると感じられるように。



私は、あなたがたのことを思うたびに、私の神に感謝し…

ピリピ1:3-5

21日：靈的な攻撃からの守り



暗闇の中に誰かの顔がふと現れ、ベッドの周りをうろついてはまた消えて行く。それは明らかにあの言語部族からの脅しと威嚇であった。でもそれが現実なのか、ただの夢なのか、彼女にはわからなかった。同室の女の子たちは熟睡したまま何も気づかなかった。次の晩、再びあの顔が現れた。やはり現実だと彼女は確信し、カウンセリングをしてもらう必要があると思った。

これ、何かの小説？ 違います。これは生徒寮で生活していた女子高校生に実際に起こった出来事です。彼女の両親はある言語部族の中で生活しながら新約聖書を翻訳していました。

カウンセラーに話を聞いて祈ってもらった後でわかったことは、あの靈的な攻撃が起きたのは、ちょうど彼女の両親の働きが非常に大切な段階に入っていたのと同じ時でした。焦点を絞った具体的な祈りの結果、彼女はベッドであの顔を再び見ることはなくなりました。

主の働きが進展するとき、靈的な攻撃がその子どもたちを襲うことがあります。子どもたちを攻撃すれば彼らの働きは中断し、あるいは途絶えるにちがいないということを、悪魔はよく知っています。子どもたちに関わる何らかの問題が生じたとき、それは宣教師がその地を去らなければならないことの大きな理由になり得ます。

祈りましょう。

(1) TCKたちが宣教地生活で起こるあらゆる靈的な攻撃から守られるように。彼らは靈的にとても敏感であり危険に晒されています。

(2) 宣教団体と派遣教会のために。派遣前から宣教師家族が靈的な闘いのための良き備えができるように配慮し、派遣後も祈りによって彼らを忠実に支えられるように。



平安のうちに私は身を横たえ、すぐ眠りにつきます。主よ、ただあなただけが安らかに、私を住まわせてくださいます。
詩篇4:8



22日：忘れてしまったことば

「『ママ、あの人たち、ばくに変なこと言うよ。』そう訴えてきた息子に答えました。『変なことじゃないわ。日本語で話しているのよ。』私は友人に丁寧に挨拶しました。彼女は再び金髪の3歳の息子に、『おはよう、ダイゴ君』と声をかけました。すると息子は彼女を叩こうとしましたが、彼女は微笑んでいました。『ジェイミ、この人はご挨拶してくれたのよ。』私は謝りました。『ごめんなさいね。息子はまだよく分からなくて。』

これは宣教師家族が一時帰国から宣教地「日本」に戻った時によく起こる出来事です。息子にとっては、世界が突然ひっくり返ってしまったのです。同じものはただ家族だけ。正確にはそれも変わった。自分に弟ができたこととパパの奉仕がフルタイムになったこと。

何もかもが変わったことで息子はぐずり出しました。私たちは息子のいらいらに長い間悩まされました。『いつまで続くの?』、『何か病気?』と。でも感謝なことに、息子の不機嫌と上手につき合う良い方法が見つかり、息子は徐々に落ち着いていきました。一貫性のある子育てと同時に、息子の良いところを褒めてあげることを学んだのです。」

(3人のTCKをもつ母より)

子どもは変化に激しく反応すると言われます。確かにそうですが、一人ひとり表れ方は異なります。性格、年齢、引越しの頻度、家族構成の変化など、そのすべてが移動に伴うその子の反応に影響します。このとき親は、知恵と忍耐と愛情を注ぐことで、子どもが移動のストレスを乗り越えられるように支えることができます。

祈りましょう。

(1) はじめて経験する文化や言葉に馴染むことが難しいTCKのために。

(2) 友だちができるのは容易ではないけれど、神様の助けによって与えられるように。

(3) 親や周囲の大人たちが彼らの困難な状況を適確に理解し、忍耐強く支えていけるように。



バビロンの川のほとり、そこに私たちは座り、シオンを思い出して泣いた。…どうして私たちが異国の地で、主の歌を歌えるだろうか。

詩篇137:1,4



23日：再帰国（再入国）



「ママ、背中かいて。」10才の子が言いました。

「でも、もう9時半よ。おやすみの時間はとっくに過ぎてるわ。まだ起きてるの？」

「心配なんだ。」

「何が？」

「オーストラリアに来ても友だちがいないよ。日本の友だちに会いたいの。帰りたいんだ。」と泣きじゃくりました。

本国に戻ってから2か月以上この状態が続きました。息子は変化に上手についていけな

いまでした。ほとんど毎晩寝付くまで泣いていました。私は専門家に相談する必要があるかしらと思い始めました。学期休みに入り2週間後、息子は新しい学校も悪くないと感じ始め、少しずつ眠れるようになり、私たちは主に感謝しました。（あるTCKの母）

宣教師家族が国を越えて移動する時は、もろく傷つきやすい時となります。大きな環境の変化の中で両親自身がそれに適応してだけでなく、子どもたちをも助ける必要があります。その地を去った途端、周りの友人の助けも無くなります。でも神の愛と守りは変わりません。

祈りましょう。

（1）TCKが、自分のパスポート国に再び（または生まれて初めて）入国する時、神様の守りと平安が与えられるように。

（2）親戚の人たち、派遣教会（母教会）、学校、宣教団、友だちが宣教師家族のことをよく理解できるように。

（3）TCKアドバイザーなど、帰国する宣教師家族を支援する人たちのために。TCKたちを助けるために必要な事を理解し、進んで彼らに耳を傾け、知恵が与えられるように。

主はあなたを、行くにも帰るにも、今よりとこしえまでも守られる。

詩篇121:8



24日：TCKたちを繋ぐ帰国準備キャンプ

reconnect

【参加した6年生から12年生までの生徒たちの感想】

「キャンプは本当に楽しかった。出発する前に最高の準備ができた。いろんなことをやった。ドラマ、工作、室内・屋外ゲーム、アウト・ドア活動、手作りの『ナイト・マーケット』。ボクたちはひとりばっちでも、変わり者でもない。」

「私たちの寮ではティーンの兄さん姉さんが若いリーダーになってくれて嬉しかったわ。」

「ボクはイギリスが大好きだけどアフリカの友だちのことも忘れられない。ボクと同じ様に別の言葉も話せて別の国に友だちがいる、そういう子が他にもいたとは大発見だよ。」

【親たちの感想】

「同じ様に感じる子どもや親たちと共に過ごせたことはとても幸いでした。皆同じ様なところを通っていました。」 「娘のレベッカは帰国後にアジアについて話すのが嫌でした。でもキャンプで彼女は変わりました。感謝します。」

「息子たちは『世界への窓』のコーナーを楽しんでいました。海外経験を皆の前で話せたのはこれが初めて。大きな励みでした。」

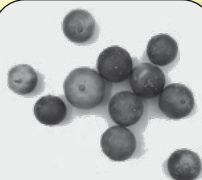
【リーダーの感想】

「私たちはナオミとルースそれぞれの人生に立ち会いました。『帰る者』と『出て行く者』。心が揺れ動く中での旅支度と人との別れ。話すことで二人の心も開かれました。」

祈りましょう。

(1) TCKと親たちのための帰国準備イベントが、互いを繋ぐ契機となるように。

(2) TCKたちが、揺れ動く様々な経験を素直に話せる場を見出せるように。



あなたがその翼の下に身を避けようとして来たイスラエルの神、主から、豊かな報いがあるように。

25日：さよならの季節



「もう飛行機チケットを買わなければいけない時期が来ました。アジアに戻るためです。チケットは3人分だけです。サラとサイモンはここアメリカに残って大学で勉強を続けます。主が祈りを聞いてくださって、二人とも夏のアルバイトを見つけることでしょう。私たちにあって今回は特別に辛い旅立ちとなります。妻と私のそれぞれの親とも再び暫くの別離となります。この現実を受け入れることは容易ではなく、こうして書いていても文字がうるんです。この一時帰国中、再びアジアに旅立つべきか或いはここに留まるべきか主の御心を祈ってきました。後ろ髪を引かれる思いですが、やはりアジアに戻り、主が私たちに与えずで始めておられる働きの責任を全うするように導かれています。

正直なところ、妻と私は、神様がもしかしたら『今回は本国にしばらく留まりなさい』と言ってくださらないかと秘かに期待していました。でも今私たちは主に信頼するしかありません。私たちがここに残らなくても主が必ず何とかしてくださると。主は現地において、妻にはインターナショナル・

スクールの教師としての働きを、そして私には共に働く二人の仲間を備えておられます。実際私たちはこのために長く祈ってきて、それが答えられ目の前にあるのです。主よ、あなたを信じます。」（自らもTCKであったTCKの父親より）

祈りましょう

（1）家族と別れて再び宣教地に戻る家族のために。それは年を経るごとに難しくなります。

（2）我が子のために、いつパスポート国に戻るべきか、個々の家族にふさわしい知恵と判断力が与えられるように。

（3）パスポート国に戻って生活するTCKを喜んで迎え入れてくれる親族や友人を、主が備えてくださるように。



イエスは言われた。「まことに、あなたがたに言います。わたしのために、また福音のために、家、兄弟、姉妹、母、父、子ども、畑を捨てた者は…百倍受け、来たるべき世で永遠のいのちを受けます。」

マルコ10:29-30



26日：あまりにも大き過ぎた犠牲？

多くのTCKとその親たちは、長い時間と距離の「別離」を経験します。双方にとってその痛みはあまりにも大きく、長く続く場合があります。昨今、親や宣教団体は「家族の別離」という課題についてよく理解し、適切な援助を試みています。一方、今日テクノロジーの発達によって大陸を超えてのコミュニケーションも可能となりました。それでも、ある親子にとっては過去の辛い経験を今なお受容することが難しい場合があります。

親たちは言います。

「私たちはあのとき大きな犠牲を払い過ぎたのではと思えるのです。」「今でも罪責の念が拭えません。私の選択は本当に正しかったのでしょうか？」

「私は知っています。あの子の心には今も涙が滴り落ちていることを。」「あの子がこんな大変なことになっていたなんて気がつきませんでした。」「他の親たちと一緒にいたとき、あの時の苦痛が私を再び襲ってきたのです。」

大人のTCKたちは言います。

「ぼくの『ふるさと』はどこ？どこにいても『いや、ここじゃない』と感じる。ぼくはいったい誰？」「ぼくの心は痛んでいる。いったい誰を、どうやって信じられるの？」「神様なんて冷酷な監督者だ。神様のために何かをするなんてまっぴらだ。」「親は何も分かってないんだ。」

祈りましょう。

(1) 我が子に対して今なお感情的、霊的な痛みを負い、子育てについて未解決の悲嘆と怒りを拭えずにいる親たちのために。

(2) 辛い別離を強いられ、神様と宣教団体を嫌悪しているTCKたちのために。神様の恵みと愛が彼らを回復させてくださるように。

(3) 愛をもってTCKを理解し耳を傾ける教会や友人や相談できる人が与えられるように。



主よ、深い淵から私はあなたを呼び求めます。

詩篇130:1



27日：本当の私

「私は15歳のときにパスポート国に戻って来た。あのときの気持ちをとても言葉で言い表すことはできない。私のすべてが失われた。人生に何の希望も見出せなかった。でも神様は私を見捨てず、変わらず真実な方だった。私の通ってきた道をすべて知っておられ、ベッドで泣いていた私を優しく包んでくれた。

神様は私にTCKという素晴らしい贈り物を与えてくださったことに気づいた。地上には自分の本当の“ふるさと”はどこにもない。“ここが一番ピッタリ”と思える所もない。私の住まいは天の御国にある。心の痛み、悲しみ、寂しさから目をそむけたくてそう言うのではない。そこにこそ希望と平安と喜びがあることが分かったから。

あの地を去って来た悲しみがまた押し寄せてくる日がきっとあるだろう。でも私は知っている。イエス様が私を日々新しくしてくださっていることを。自分でも不思議だけど、イエス様は私のもつれた深い悲しみの糸を優しく解きほどこしてくれている。苦しみに会ったことは無駄ではない。それを通して神様の栄光を見るから。美しく変えられていく自分を見るから。辛い経験が私を本当の私に造り変えていく。

まことの造り主が願っておられる美しい、とっておきの、宝の私に変えられていく。」（TCKの一青年より）

祈りましょう。

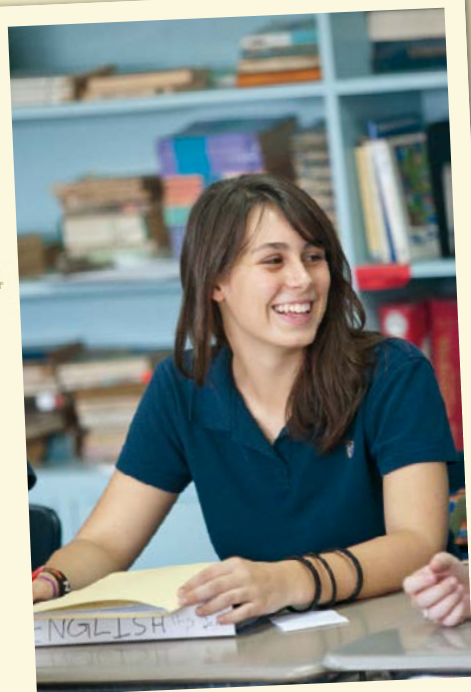
（1）TCK一人ひとりが、神の家族とされているというアイデンティティ、帰属感を見出すことができるように。

（2）TCKが人生のいろいろな出来事を通して新しくされていくことを経験し、自分の可能性を存分に引き出していくことができるように。



わたしは秘められている財宝と、ひそかなところに隠された宝をあなたに与える。それは、わたしが主であり、あなたの名を呼ぶ者、イスラエルの神であることをあなたが知るためだ。

イザヤ45:3



28日：人生の節目

「ボクはこの2、3か月の間に幾つかの大きな出来事を経験している。18歳の誕生日を過ぎ、高校を卒業した。友人たち皆に別れを告げた。彼らはボクにとってまさに“故郷”であったことを初めて知った。初めて給料ももらった（僅かだがとても満足している）。大学進学の手続をして、自分の人生の過去と将来について考えている。クリスチャンとしての信仰を自らのアイデンティティとして確認している。」（TCKの一青年より）

ティーンが人生の転換期を迎える時、それは異国で育ったTCKにとっては特に強烈な経験となることがあります。彼らは数多くの別れを経験し、しかもそれは再会の保証のない別離だからです。

「神様は兄の結婚式を、遠くに海を眺める山の上の美しい大自然の中で豊かに祝福してくださいました。新しく私の姉となった花嫁は、光栄にも私をブライド・メイドに加えてくれました（つまりは無報酬のチームの一員だけ）。花婿と花嫁は、祝いの食卓と装飾のうちにアフリカとアジアというそれぞれの生い立ちをみごとに織り込みました。それは、2つの別のTCKの人生を1つに結び、織り成しておられる神様の御業への感謝の献げ物でした。

（TCKの一青年より）

ティーンのためのTCKのために祈りましょう。

（1）人生の節目において、神様に栄光を帰する決断ができるように。

（2）問題に直面したとき、自由に安心して相談できる成熟した助言者を見つけられるように。

（3）家族と遠く離れていても、しっかり繋がっていることができるように。



あなたの行く道すべてにおいて、主を知れ。主があなたの進む道をまっすぐにされる。
箴言3:6



29日：人生を振り返る

「私は大学を卒業する頃、幼いときの喪失体験、つまり学校の寮に入るために両親と別れてきた6歳のときのことを振り返るようになった。私は大人になっていくのが嫌だった。過去の多くの喪失という悲しみを抱えながら、それらを人生の一部として受け入れていく新しい見方を学ばなければならなかった。

それでもそういった過去を手放すことができなかった。もしそうしたら、自分の大切なものもすべて失ってしまうのではないかと感じた。あるとき私は、自分が失うことを恐れているものを書き出してみた。友だちの愛、大切な人々や場所の思い出、そして神様との確かな関係。すると神様は私に優しく教えてくれた。『それらは皆これからもずっとわたしと一緒に持ち続けていいんだよ』と。

ヨハネ13:34-35を読んだとき、私はこれから人を愛し、友情を大切にしようにと励まされたように感じた。いつかそれもまた失うことがあるかもしれないけれど。イエスは弟子たちに命じられた。『互いに愛し合いなさい。それこそがあなた

たがたがわたしの弟子であることの人々へのしるしである』と。もしこれが神様の命令ならば、その結果何が起きたとしても、神様が心配してくださるはずだから。」（ある大人のTCKの回想）

祈りましょう。

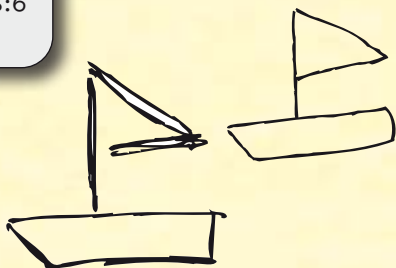
（1）アイデンティティの喪失、根無し草のような感覚、孤独感、悲しみや怒りなど、彼ら特有の課題と向き合っているTCKのために。助けとなる人や本に出会えるように。

（2）TCKが情緒的または霊的な助けを必要としているとき、親たちがたとえ忙しくても彼らを支えていけるように。



私は苦しみの中で主を呼び求め、わが神に叫び求めた。

詩篇18:6



30日：TCKのものの見方

「TCKは様々なことを見たり聞いたりして育ちます。スラム街で瀕死の子どもを抱きかかえているお父さんの姿を見たこともあります。お母さんと共に仏教徒の家で何日か過ごしたり、奥地の川で絶滅危惧種のイルカと戯れたり。親がいろいろな言葉を使って様々な所で聖書から語ったり教えたりしているのを見たり。また、多くの“おじさん”や“おばさん”（親の同労者）たちが御国のために異文化の中で人々を愛し仕えている姿を見ています。

TCKたちは人々との関係を築くことが上手なので、人との会話でもすぐに深い話をする事ができます。ティーン期のTCKが自分なりの考えをもって今日の国際問題、社会問題、人々の価値観についての話題に臆せず参加しているのを見て、大人たちが驚くことがあります。物事に動じず、機会を逃さず、新しいことに挑戦する。あるTCKたちは言語能力をさらに習得し、世界中で活躍しています。

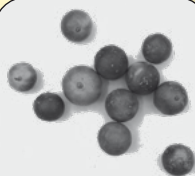
TCKたちは経験的に優れた文化適応力、世界中を頻繁に移動し滞在できる能力を備えています。福音宣教や教育の働きはもちろん、ビジネスや外交の分野で国際的な働きを担っている者もいます。異文化の人々にも親しい友人のように接することができます。柔軟な考え方をもち、画一的な発想や行動に捉われることなく、広い世界観を持っています。」（TCKの父親であり、自らもTCKであり、団体の国際総主事である者より）

祈りましょう。

（1）TCKに与えられた豊かな人生経験のゆえに神様に感謝しましょう。両親たちが神の召しに従ってやって来たことが子どもたちへの祝福となったのです。

（2）TCKが将来の進路決定をする時に、TCKであることの恵みを大切にできるように。

（3）彼らがどこに遣わされても平和の使者として、TCKの経験を生かし、御国のために自らの役割を果たしていけるように。



わたしが来たのは、羊たちがいのちを得るため、それも豊かに得るためです。

ヨハネ10:10

私のTCKの友人

「私にはある友人がいます。彼は幼い頃、別の場所にいましたが、後に両親の故郷に移り住んで来ました。彼は一番上の子だったので、彼の思い出のほとんどは自分がかつて住んでいたところについてのものばかりでした。それは今住んでいるところの文化とは非常に異なり、まさに神を恐れる世界でした。

その地に移り住んで来た彼は、いじめられ、ののしられ、以前まったく知らなかったあらゆる種類の恐ろしい経験をしました。

弟や妹や友人たちは彼のことを変わり者だと考えていました。今自分たちが住んでいる親の国の文化しか知らなかったからです。彼のことを不思議な人と見ていました。というのも、彼のやっていることも話していることも普通

とは違っており、考えていることさえまったく異なっていたからです。

そして多くの人たちは、彼のことを変わり者と呼ぶどころか、“嫌なヤツ”とまで呼ぶようになりました。

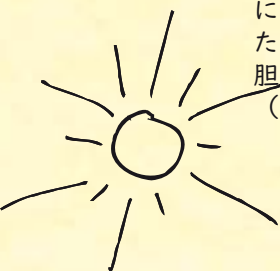
要するに、彼はまったく違うところに自分の“故郷”を持っているようでした。彼はまさにTCKそのものでした。まったく別のところに2つの故郷を持っていたのです。

ある人が彼について書きました。『この方はご自分のところに来られたのに、ご自分の民はこの方を受け入れなかった。・・・ことばは人となって、私たちの間に住まわれた。』ヨハネ1:11-14

もうたぶんお分かりだと思います。この私の友人の名はイエスと言います。彼はその人生において、まさにTCKと同じ経験をしました。ヘブル4:15,16にはこう記されています。

『（彼は）・・・私たちの弱さに同情できない方ではありません。・・・すべての点において、私たちと同じように試みに会われたのです。ですから私たちは、あわれみを受け、また恵みをいただいて、折にかなった助けを受けるために、大胆に恵みの御座に近づこうではありませんか。』」

（ある大人のTCKより）







“世界を旅する遊牧民”、“多文化の中に生きる子ども”、“TCK（第3文化の子ども）”などと呼ばれる子どもたちがいます。海外に派遣されている軍人、外交官、ビジネスマン、宣教師などの子どもたちのことを言います。彼らは頻繁に移動を経験し、国籍の異なる親しい友人がたくさんいます。また、彼らは、スラム街の瀕死の子どもを抱いている父親の姿を見たこともあれば、海や川でイルカと戯れたこともあり、親がいろんな所でいろんな言葉で人々に話しているのを聞いてもいます。

本書で紹介されているストーリーはTCKたちが経験した実話を基にしています。異文化の中で福音に仕える親と一緒に生活し育ってきた宣教師の子どもたち。彼らは楽しかった事や困難な事など、様々な出来事に遭遇しています。本書は彼らのために祈っておられる読者の方々にきっと大いに役立つことでしょう。彼らTCKのために共に祈ってくださることを心より感謝します。